

【子育て・教育・福祉】

子育て・教育・福祉の分科会では、17人が参加しました。テーマは「子どもの健やかな成長のために」です。

核家族化が進んでいる中で、参加者からは、子育ての悩みを聞く相談窓口や、小学校の放課後に児童を預かる活動が紹介されました。子どもが健やかに育つためには「家庭力が必要」との意見がある一方で、「親も子ども、現在の環境では息抜きができない」という声も聞かれました。

一人親世帯への支援では、「高校入学時に制服を提供しては」と提案。また、「高齢者が子育て世代の母親と交流することで、相談役にもなれる」とし、若い父母と、地域のお年寄りとの交流の場をつくることで、「地域の和が広がる」という提案がありました。

人口減にも関連し、「町は少子化対策にもっと積極的に取り組むべきだ」という意見も出ました。

少子化対策に積極的取り組みを



子どもの健やかな成長や、地域の和などを話し合った分科会

すずらん号を観光に活用して

商工業の分科会では町民5人が参加しました。テーマは「富士見駅前商店街の活性化」です。

町の都市計画道路に関しては、「達成率が6%に過ぎない。県内でも低い方だ。茅野市、岡谷市は動いているのに、なぜ富士見町は駅前が進まないのか」と指摘。町の積極的な取り組みを求めました。

商店街の活性化では、「入笠山を訪れる家族連れの多さが目立つ。駅前で買い物をしてほしい」と希望。対策として、デマンド交通「すずらん号」に、「観光客も利用できる方法を考えてほしい。日曜の運行も必要では」と新たな仕組みを提言。「北杜市と連携し、県境を越えた相互乗り入れの路線バスを新設しては」と積極的な提案もありました。

町内の若者が減少したことを実感し、「仕事が町内にないと言われる。商工業界が若い人を育ててほしい」との指摘がありました。

【商工業】



富士見駅前商店街の活性化を話し合った分科会